

平成28年度  
短期大学教育改革 ICT 戦略会議の開催概要

平成28年10月8日  
第47回理事会

1. 日時 : 平成28年9月7日(水) 13:00~16:30  
会場 : アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)

2. 参加者数 : 参加者: 24名(20短期大学, 1高等専門学校) [昨年度59名]

3. 確認できた主な点

① 「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化」の必要性として、大学では専門職業人養成機能の量的拡大に比重をおいて対応することに限界があること、短期大学では地域に根ざした身近な高等教育機関として専門職業人を養成する強みがあるが、社会の複線化に伴う職業人能力の高度化に短期の修業年限の範囲で対応することが難しい場合もあることが確認された。設置形態として、大学・短期大学が一部の学部・学科を転換させるなど、新しい教育機関への移行を想定している。そのような環境変化の中での短期大学は、地方創生の中核人材育成の拠点、密度の濃い教育の徹底、意欲の高い教職員の育成確保、地域の自治体・産業界等との連携強化など改革の推進が求められている。

② 「地域に密着した人材育成の実践」の事例として、地域での学外体験活動を教育課程の中核に位置づけ、地方公共団体・企業との連携の下に実践することで、学生の地域理解の促進、地域課題解決のために身につけるべき専門分野の知識・技術の修得、コミュニケーション力、計画立案力などの社会人基礎力の向上を図っている。その上で、教育効果の測定として、社会人基礎力テスト(P R O G)を入学時の4月、12月、卒業間際の3回実施してその学修成果を可視化するとともに、地域社会から短期大学への要望・ニーズの把握及び外部評価を実施している。

③ 教室での学びが社会でどのように活かされるかを実感できるようにするため、地域でどれだけの実践経験を積み、人間力を高めることができたかを可視化する「経験値評価システム」をスマートフォンなどで実施している。その際、連携先の住民から地域活動の評価を得ることにより、学生の活動内容を深め、活性化が期待されている。経験値を高める必要性をどのように理解させるのか、短期大学のブランドを高めるには地域との相互理解を如何に図れるかが今後の課題としている。

④ 全体討議では、専門職業人材の育成、地域コミュニティ人材の育成、教養人材の育成機能の向上などの観点から、短期大学としてのブランド化について探求し、以下のような建設的意見があった。

※ 地域に根ざした教育機関として短期大学が地域と強い協力関係を維持していくには、単なる教育機関ではなく、地域の課題を積極的に解決する研究の機関・拠点である必要がある。地域社会が抱える子育て支援、食育活動の推進、高齢化、過疎化などの今日的課題に対して、短期大学と地域社会が連携して解決に向けた研究活動を推進する必要がある。

※ 課題解決に多様な視点を持つ人材を中長期的視野で育成するとともに、地域に根ざした研究活動の成果を地域の業種団体や自治体と協力することで研修プログラムとして提供し、社会人の能力開発に積極的に関わっていく中で、教養に根ざす人間性・課題解決力・誠実性を持った人材育成スパイラルの拠点として地位を確立することで、社会人教育に積極的に取り組み、地域社会に存在をアピールする。